

深川市開業13年目の現状

たかはし内科消化器内科

院長 高橋 公平

私は北空知の基幹病院である深川市立病院に2000年4月から4年半勤務の後、2005年10月市内に無床診療所を開院し13年になりました。地方都市であったことから、テナント入居ではなく自ら土地を購入し、医院を新築することが可能でした。当時、夜間救急外来に時間の都合で、非緊急疾患で受診するいわゆる「コンビニ受診」が問題となっていました。そこで夕方の通常受診のニーズに少しでも応えることができればとの思いから、開業当初より診療受付時間を午後6時半までとしました。市外勤務する方も多いため当初少なかった夕方の来院者も、夕方診療の噂が広まり、現在は午後受診の4割ほどがこの時間に集中しています。欠勤までしなくとも、早退や通常勤務終了後でも受診できる利便性があるようです。

戸建ての小さな診療所なので、コンビニのように車から降りてすぐに玄関に入れる気軽さも受診しやすさに繋がっているようです。

消化器内視鏡検査ですが、上部検査は空腹で、午前中に来てくれれば予約なしに受けています。また、午前中に時間が取れない人には昼食を抜いてもらい、午後4時以降に来院してもらうようにしています。下部検査については検査中病変があれば拡大内視鏡などを使い、適応があればなるべくその場で切除し、来院回数を減らし利便性を高めています。そのほかスクリーニングで睡眠時無呼吸症候群の疑いがあれば基幹病院である深川市立病院に確定診断を依頼し、その後の当院での在宅医療に繋がっています。

数は少なくとも、確実なニーズがあれば小規模な診療所なりに工夫を凝らし、できるだけ対応していくように考えていますが、このようなサービスには優秀なスタッフが欠かせません。しかし職員確保は大変な問題で、特に午後6時30分までの受付だと事務員、看護師の負担が大きく、残り当番を決めて輪番で対応するなど、地方ならではの工夫が必要です。

上記のような特殊な疾患以外で数が多いのは、やはり生活習慣病、喘息・COPDなどの慢性疾患です。その中で急変した場合や悪性疾患の合併などがあれば速やかに近隣の専門機関に引き継がなければなりません。

翌日以降の紹介受診で間に合う場合は良いのです

が、帰宅させることが困難な重症例は深川市立病院の時間外外来にお願いしています。深川市立病院は医師不足のため、整形外科、皮膚科、小児科、産婦人科で常勤医不在の厳しい状況の中で救急患者さんへの専門的対応をしていただいております。

急性心筋梗塞またはその疑い患者を直接遠方の旭川や砂川などの専門医療機関へ紹介するのも、当院のマンパワーでは対応困難です。確定診断とその後の搬送も含め、この場合も深川市立病院にお願いしているのが現状です。

深川医師会では日曜日祝日当番医制があるのですが、住民の皆さんは当番医ではなく、高度な対応が可能な深川市立病院を受診する傾向が強くなり、深川市立病院勤務医の負担が問題となっていました。そこで現在は、当番医の医師が深川市立病院に出向いて日曜日直を行うことになってます。これが深川市立病院にとってどれほどの役立っているかはまだ評価の途中ですが、少ない医療資源を枯渇させることなく持続させなければなりません。当医師会は小さいのですが、それゆえ互いの顔がよく見え、風通しがよく協力しやすい環境です。これからも地域連携により頑張っていきたいと思っております。